

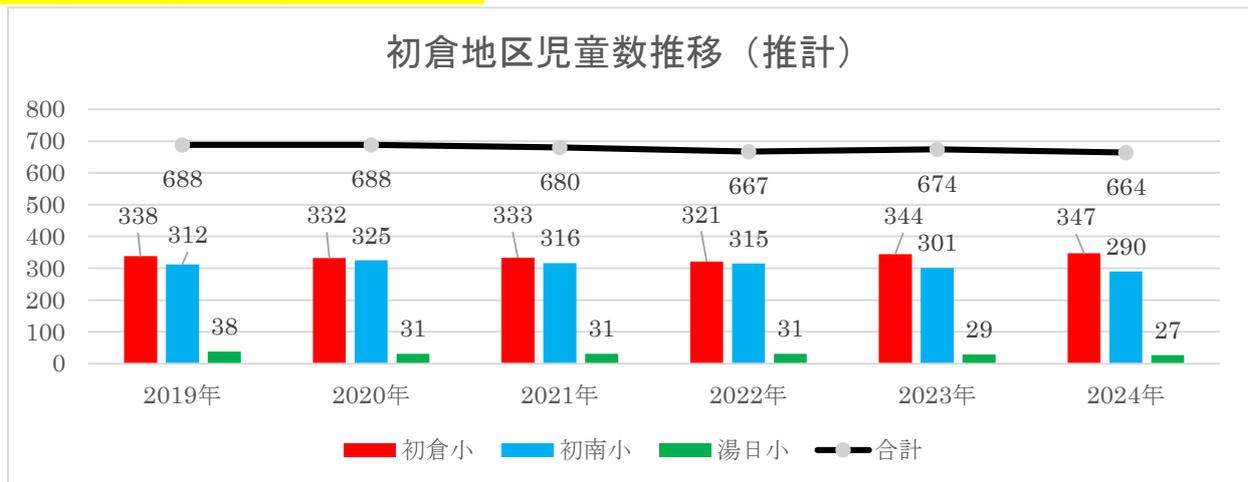
初倉南小学校区にお住まいの保護者の皆様、地域住民の皆様へ

日頃から島田市の教育行政に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

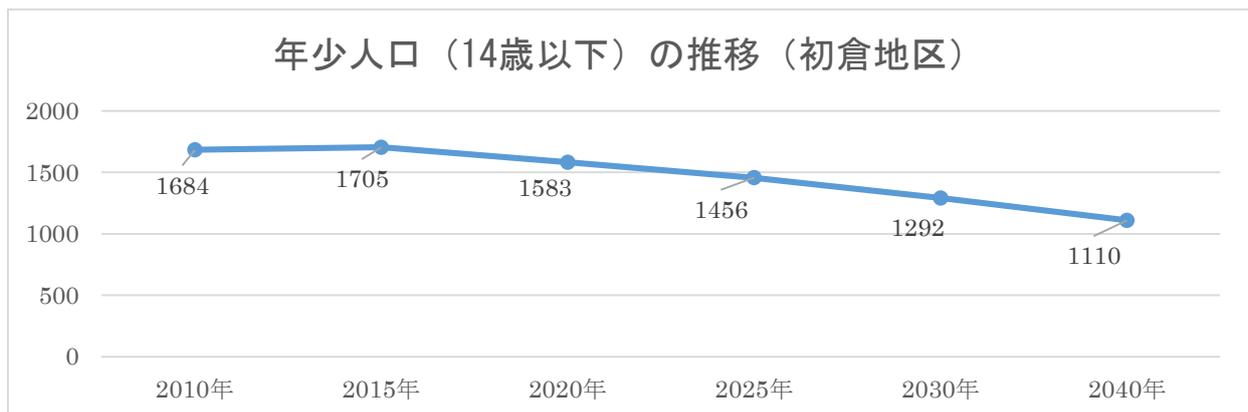
島田市教育委員会では、昨年9月に「島田市教育環境適正化検討委員会」からの提言を受け、学校再編などの教育環境整備に取り組んでいるところです。

提言書では、初倉小学校と湯日小学校を統合し、将来的には初倉南小学校を初倉小学校に統合した上で、初倉中学校を含めた準一体型の小中一貫校とすることを検討すべきと示されています。提言では「将来的に」とされていますが、教育委員会では、初倉小学校、湯日小学校、初倉南小学校の3校を同時に統合することについて検討をしています。

初倉地区の児童数の推移について



現時点では、初倉小学校と初倉南小学校の規模に大きな違いはありませんが、平成27年に作成した「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」によりますと、今後人口減少が進み、これに平行して子供の数も減っていく推計となっています。



初倉南小学校の学校再編に関する保護者、地域住民の皆様との意見交換会を開催しました

12月13日（初南小）、17日（初倉公民館）、1月19日（初南小）に、初倉南小学校の2年生、1年生の保護者、今後初倉南小学校へ進学する未就学児童の保護者、初倉南小学校区の自治会の皆様を対象に、学校再編に関する意見交換会を開催しました。

教育委員会からの説明

1 島田市の教育環境の適正化

●島田市立小学校及び中学校の在り方検討委員会

「地域総ぐるみで進めましょう 夢育・地育の花咲く 島田の教育」をキャッチフレーズ（教育理念）に5つの基本的方向性が示されました。

- ① 地域が主体性を持って教育に参画し、学校と協働して共に教育を支えるしくみを整える
- ② 地域の文化や伝統を継続するために、地域が主体性を持って教育機能を分担すること
- ③ 就学前からの家庭教育を地域全体で支えるしくみづくりを進めること
- ④ 今後必要とされる学校再編については、適正規模や学校施設の老朽化の状況などを考慮するとともに、地域の生活や文化・伝統の存続及び活性化を島田市全体で支えるという前提のもとに、これを検討していくこと
- ⑤ 以上を実現していくため、学校、地域それぞれにおいて、組織のあり方を必要に応じて見直し、力を集約して改善に当たる方策を検討し、島田市と島田市教育委員会とは協力してこれを支えていくこと

●島田市教育環境適正化検討委員会

児童生徒数の減少という点で課題の大きい北部地域及び初倉地域において必要と思われる学校再編方針案が示されました。

【初倉地区の再編】

早期再編を望む保護者が多い湯日小学校を先行して初倉小学校と統合することが望ましい。

将来的には、初倉南小学校を現在の初倉小学校に統合した上で、初倉中学校も含めた準一体型の小中一貫教育校とすることも検討すべき。

ただし、現時点では初倉小学校と初倉南小学校の規模に大きな違いはなく、再編の是非についての議論も成熟していない。加えて、3つの小学校を同時に統合するには初倉小学校の増築が必要となり、これらの点も勘案した上で地域住民の意向を踏まえた慎重な議論を重ねていくことが必要。

●総合教育会議

市長と教育委員による会議（総合教育会議）において、地域の声として3つの小学校の同時統合を望む声があることが紹介され、委員から、地域や保護者の皆様の意見を十分に聞いて決めていくようにとの意見がありました。

2 平成34年4月の3校同時統合について

初倉小学校の負担（2度の統合）を考慮する。（教育方針のすり合わせ）

現在、提案させていただいています2022年度（H34年度）に統合した場合の推計人数（特別支援学級への入級希望者数は除く）で説明をさせていただきますと、1年生が33人、33人、34人の3クラス、2年生は34人、34人、35人の3クラス、3年生は31人、31人、32人、32人の4クラス、4年生は28人、28人、28人、29人の4クラスとなります。5年生（現1年生）ですが、児童数が111人ですので27人、28人、28人、28人の4クラス、6年生（現2年生）は、児童数114人で28人、28人、29人、29人の4クラスといった学級編成となります。初倉南小学校の現在の1年生は、1クラス26人ですので再編により1クラス当たり2人が増え、現在の2年生につきましては、1クラス30人のところが1人から2人の減少になると思われます。

あくまでも、平成30年4月1日現在の、住民基本台帳を基にしていますのでクラスごとの人数については、予測と言うことで御理解をいただきたいと思ます。

※H34年度に再編した場合に想定される学級編成（例）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1組	33人	34人	31人	28人	27人	28人
2組	33人	34人	31人	28人	28人	28人
3組	34人	35人	32人	28人	28人	29人
4組	—	—	32人	29人	28人	29人
計	100人	103人	126人	113人	111人	114人

3 小中一貫教育

「豊かな心」を育てること→「夢育・地育」の取組（初倉地区を研究指定）

夢育・地育の効果を引き出すために小中連携を進めてきた。→一定の成果

今後、小中連携をもう一步進めていきたいという考え。→小中一貫教育

学校再編により中学校の数と小学校の数をできるだけ近づけたい。中学校1校に対して小学校1校が望ましいかたちである。

4 学校再編による効果と課題

【再編による効果】

- ・適正規模の集団により、多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することで変化の激しい時代を生き抜く力を育てる教育が充実する。
- ・児童生徒の人数が多いことで、行事等の教育活動が活気に溢れる。
- ・人間関係に配慮した多様なクラス替えができ、毎年気持ちを新たにできる。
- ・専門的な教職員の配置が可能になり、レベルの高い指導が受けられる。
- ・保護者が多いことで保護者間の交流が広がり、多様なPTA活動が可能になる。

- ・小規模校では予算的に難しい行事等を企画したり、著名な講師を呼んだりすることができ、一つの事業で多くの児童生徒が効果を楽しむことができる。

【再編による課題】

- ・通学距離が長くなりスクールバスや地域との連携など登下校の安全対策が求められる。
- ・同学年でも深いかかわりが持てない児童生徒がいるなど、人間関係が希薄になることがある。
- ・教育活動の中で、一人一人が活躍する場や機会が減少する。

保護者アンケートの結果について（H30.12実施）

●回答者数

初倉南小（2年生以下）	92
保育園等	73
計	165

●3校同時統合について

賛成	28
反対	82
どちらでもよい	53
未回答	2

●平成34年度の同時統合について

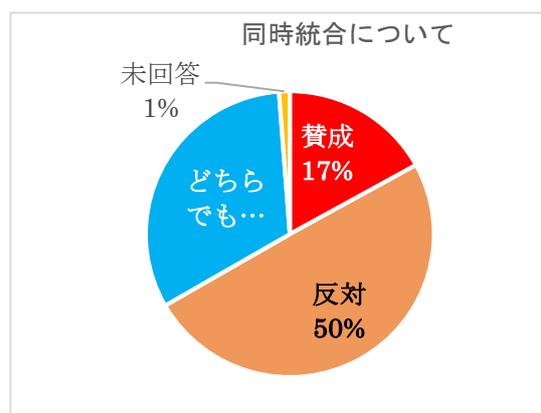
ちょうどよい	16
早すぎる	9
遅すぎる	3
わからない	51
未回答	3

●3校同時統合に反対の理由等

初倉小・湯日小が先行して統合	19
初倉小と湯日小だけの統合	57
その他	12

<主な反対意見>

- ・1クラス当たりの人数が増え、先生が目がどこまで届くか不安
- ・現状の初倉南小学校で困っていないため統合のメリットが不明
- ・初倉南小学校の1学年が1クラスになってしまう児童数になってからが良い
- ・登下校の距離が長くなること、交通量が多い道路での通学に不安
- ・統合の目的が不明



<再編の時期(H34)についての意見>

- ・子供たちが過ごす教室や校舎が整い、各学校のすりあわせが充分に行われてからの統合が良い。
- ・3校同時は、湯日小以外の学校の児童数が減ってからも良い。
- ・学校統合による影響の洗い出しと対応策を考えるのに3年は短い。PTA 役員など学校生活と直接関係ない部分について話し合いや検討が必要な事柄がたくさんある。

意見交換会等での意見からの今後の課題

大きく分けて3点程度の不安要素があると思われます。

1 通学方法に対する安全面への不安

教育委員会でも市内の全小中学校に通う子供たちのことを考えれば、共通のことであると理解しています。現在でも、交通安全学習などにより子供たち自身にも、しっかり理解してもらうような教育活動を行っています。

しかし、昔と違い交通量が増え、不審者情報が増加していることは間違いのないことですので、各学校と情報を共有し、継続してしっかりと取り組んでいかななくてはならないことであると考えています。

また、スクールバス運行の現状は、通学距離が中学校で6km以上、小学校では4km以上となる地区の児童生徒がスクールバスを利用して通学している状況です。初倉地区については、4車線の道路があり、藤枝への交通網も整備され交通量が非常に多くなっていますので、他地区と違う状況があることも考慮し、距離などに対する協議、検討が必要であると考えています。

2 子供の数が増えることによる学校生活への不安

現在の人数で学習している初倉南小学校での教育などに不満がないということですので、初倉南小の先生方にとっても教育委員会にとっても大変ありがたいご意見であると感じています。

しかし、こういった意見は、市内で3クラスの学級編成を持つ、島田第一小、島田第四小、六合小や六合東小、金谷小学校の保護者の皆様も同じように感じていただけているものと思っています。クラス数が増えれば先生の数も増えますので、担任だけでなく、いろいろな先生の目で様々な視点から子供たちを教育することができます。したがって、児童数やクラス数が増えることで、今よりも目が行き届かなくなるということはないと考えています。

3 学校施設の充実について

現在の初倉小学校は、初倉南小学校と同じく、ワークスペースをもつオープンスクールの2階建ての学校です。初倉南小学校と違う点は、各学年で普通教室を4クラス設置することができる大きさとなっていることです。

ただし、統合することで、その他の改修等が必要になることは予測されています。例えば、児童の昇降口棟を平成27年度に耐震性の問題から改築を行っているため、現状に合わせた下駄箱の配置になっていますので、対策をすることが必要となります。また、先生の人数が10人程度増え、加配教員や支援員等も増えることが予想されますので、現在の職員室の広さでは手狭になるため増築が必要となります。しかし、これらの課題は、教育委員会として責任を持って解決していかなければいけないことであると考えています。

今後の進め方について

初倉小学校区及び湯日小学校区を含めた初倉地区全体の意見交換会を3月下旬に開催する予定です。皆様の御意見をうかがった上で、学校再編計画策定委員会で検討し、市長が主宰する総合教育会議での協議を経て島田市としての方向性を決めていきます。